

従軍慰安婦という悪質な虚構

(3)

今年五月十三日の「従軍慰安婦は必要だった」との橋下徹大阪市長の発言に端を発した『従軍慰安婦問題』について、当欄では正しい歴史認識を持つべく考察を重ねてきました。

皆さんから本当に沢山のご意見ご感想を頂戴し、心より感謝申し上げます。次第です。従軍慰安婦については、「強制連行」があったのかどうか？

ここが一番の焦点になっており、軍隊の動向などについて、教えてほしいとのご要望がありましたので、今月号ではその辺の事を考察していきます。また、当問題は今だけの問題ではなく、我々日本国民の誇りに関わる重要な問題でありますので、どうか根気強く読み進んで頂ければ幸いです。

☆【軍隊兵士の性処理について】

軍隊は身体強健な若者の集団です。この軍隊が戦闘の末に敵地を占領していくのが戦争というものです。長い禁欲と戦闘をくぐり抜けてきた兵士達です。放置しておけば、占領地の女性に暴行強姦といった狼藉を働くことは避けられません。古

くはそれが勝利した側の権利のように考えられ、戦闘終了後の占領地は阿鼻叫喚の巷と化すのが通例；といった時代もあったようです。そこで軍隊の性処理をどうするのか？この問題は、どの国にとっても難しい問題だったろうと思います。

☆【公娼制度で「治安維持」と「性病対策」

我が日本国は近代になって、日清、日露の両戦争を経験しました。しかし戦争は短期間で終わり、軍隊を占領地に長く駐留させることもなかった中で、兵士達の性処理はさほど問題にならなかった様です。日本軍がこの問題に直面するのは満州事変以後でした。

日本軍は南満州鉄道の安全を確保するために軍を進め、沿線地域を占領して軍隊を駐留させ、治安維持に当たりました。そこで兵士達の性処理のために、日本や朝鮮の売春業者が抱えている売春婦を連れてきて、占領地で商売することを認めました。その狙いは大きく二つあります。兵士が占領地の女性に暴行強姦を働いたら反感を募らせ、治安維持にはマイナスになります。その為にも業者が売春宿を開くのを認め、占領地女性の被害を防ぐ、という

ことが一つです。もう一つは性病対策です。戦前、最も恐れられた性病は梅毒でした。実はこの梅毒対策は戦前の公娼制度の重要な柱でもあり、野放図にして梅毒を蔓延させるより、公的に管理した方が良いという考え方です。その為に遊郭街の売春婦には、今ではこの言葉は殆ど使われることがなくなりましたが、「駆梅」が行われたのです。文字通り梅毒を駆逐するという意味で、役所の衛生を担当するセクシヨンが、梅毒に罹っている売春婦が商売をしていないかどうか、厳しいチェック、検査を敢行していたのです。公娼制度というのは、この駆梅が行いやすい体制でもあったわけです。その検査で万が一、「梅毒罹病者」が一人でも見つかり、その売春宿はおとがめを受けました。当然の事ながら営業的にも損をします。もしそうなると売春業者は元も子もありません。だから性病対策には真剣に取り組みざるを得なかったのです。また軍隊としても、兵士が性病に罹っては戦力もダウンします。その点、占領地で売春業者に商売をさせた方が安全だと考えたわけ

です。最も、占領地では役所や警察の機能が整っていない為に、軍隊の衛生班が駆梅の任に当たったところもあった様です。更に言えば、売春宿は兵士が無防備になるところでもありません。そこをゲリラに襲撃されたら被害は絶大です。だから売春宿の周辺を軍隊が警備するという事例もありました。ただ、軍隊と売春宿の間にはこれだけであって、それ以上でも以下でもありませんでした。

☆【従軍慰安婦ではなく

「戦場売春婦」

しかし占領地は日本国内より危険度も高く、そんな占領地にわざわざ出向いて商売をする業者などいたのだろうか？一抹の疑問も残ります。ところが、これが大いにいたのです。兵士には俸給が出ます。これは確かな調査データがあるわけではありませんが、兵士達は俸給の三分の一を実家や家族に送金し、三分の一を自分の用品購入などに充て、残りの三分の一を売春に使ったとも言われています。いずれにしろ兵士に支払われる俸給のうち、相当な額が売春に流れたことは確かな様です。これを業者が見逃すはずはありません。占領地での商売は儲かるという事で、わざわざ満州に出向き、売春宿を開

く業者が引きも切らなかつたので
す。売春婦も同様です。占領地は稼
げた。業者の求めに応じ、あるいは
自ら望んで占領地に陸続として出向
き、商売したのです。もちろん、こ
の業者は日本人か朝鮮人に限りま
す。

作家の宮尾登美子氏の父親は、そ
ういう業者の一人でした。宮尾氏は、
この父親をモデルに作品を書いてい
ます。そこには父親の羽振り、満州
に渡る売春婦に支払われる支度金の
跳ね上がりぶり、売春婦の稼ぎぶり
などが活写され、占領地での売春宿
の実態がどういふものだったかを知
ることが出来ますので、興味のある
方は一読してみてください。

占領地に売春宿を開く業者は日本
人だけではありませんでした。業者
の売春宿の売春婦には朝鮮人女性も
いたし、シナ事変後占領地がシナ大
陸に拡大してからはシナ人女性もい
た様です。日本の軍隊と売春との関
わりは、そういう事なのです。実態
を知れば、軍隊が任じて、その活動
を保護した従軍慰安婦や従軍記者と
同列に並べて、『従軍慰安婦』など
と呼べるものでないことは、容易に
理解して頂ける事だろうと思います

また、実際に『従軍慰安婦』という様
な呼び方はありませんでした。あえて
名称を付けるなら「戦場売春婦」とい
うのがもつとも正解なのではないでし
ようか？（上智大学名誉教授・渡部昇
一氏の説を引用）

☆【強制連行など無かった】

橋下徹大坂市長が仰る通り、売春婦
や売春宿があつたことは事実で、いま
の時代から考えれば非人間的なことだ
ろうとは思いますが、日本国が謝罪を
求められているのは、「若い女性を強制
連行して、慰安所に閉じ込め、無理や
り慰安婦にした。そして、それが日本
の政府や軍の方針だった」という虚構
に対してです。しかし、そんな事実
はどこにもありません。

先月号にも記しましたが、この問題
は吉田清治という人物が、「自分は済州
島で約二百名の女性を強制連行して慰
安婦にした」と、捏造した告白本を
出し、韓国のメディアにも登場しては
嘘の実態を吹聴する事でクローズアッ
プされ、韓国政府が日本政府に謝罪を
要求する様になりました。更には、元
慰安婦なる女性達が名乗りをあげ裁判
を起こしたりして、その結果、何の証
拠もないのに「強制性」を認めてしま
つた《河野（洋平）談話》、そして《村

山（富市）談話》へと繋がっていくの
です。特筆すべきは「売春婦」や「強
制連行」という言葉も、吉田清治の本
が初出でした。そんな吉田氏は後に、
「本に真実を書いて何の利益もない。
人権屋に利用された私が悪かった」と
と述べている事が、日本大学の秦郁彦
（はたいくひこ）先生の著作で明らか
になっていきます。

☆【米国マイク・ホンダの票集め】

この問題は日韓だけにとどまらず、
アメリカの方にも飛び火しました。平
成十九年（二〇〇七）には、アメリカ
の外院議会でマイク・ホンダ（日本名
は「本田実」という日系アメリカ人議
員が日本政府への慰安婦に対する謝罪
要求決議案を提出して、これが特に反
対意見が無いという事で決議された
（※過去五回提出されて、いずれも廃案
になっており、今回は「サスペンショ
ン・オブ・ザ・ルール動議（議論の必
要の無い議案をすばやく可決するの
に用いられる手法）」が適用された。つま
り議場にいた、たった十名の賛成派に
反対意見が無い事を確認しての決議の
可決でした。

更に、ニュージャージー州のパリセ
イズ・パーク市という韓国系アメリカ
人が人口の五十二割に達し、副市長や

市議を送り込むなどして、韓国系社
会が極めて大きな影響力を持つてい
る場所の、公立図書館に、同市の主
導「韓国系米国人有権者評議会」の
支援で、こともあろうに、「従軍慰安
婦記念碑」が建立されたのです。そ
してその碑には、うずくまる女性に
手をかけようとしている日本兵の姿
と、その周りには「日本帝国政府軍
によつて拉致された二十万人以上の
女性と少女」と彫り込まれているの
です。

繰り返しますが、慰安婦の強制連
行は無かつたし、戦後の日韓間の国
と国の補償については、昭和四十年
（一九六五）の日韓基本条約で締結し
ているので、今さら補償する必要も
ないし、またしてもいけないのです。
それなのに、「誠意ある対応をしなけ
れば、ソウルの日本大使館前に慰安
婦の碑を一つずつ増やしてやる」な
どと恫喝してくる韓国に対して、私
達は正しい歴史認識に基づき、日本
国民としての誇りをもって対処しな
ければいけないのです。

（来月号に続く…）